

里海通信

能登町立小木小学校

令和7年7月18日

今年度も各学年で行っている海洋教育を里海通信でご紹介していきたいと思います。本校では、海洋教育を通して、小木の大切な資源である海そのものに興味・関心を高め、地域の良さや問題点に気づく学習を進めることで、今よりもっと小木の町に愛着をもてるようになることを目指しています。

本校の海洋教育は、①海に親しむ ②海を知る ③海を守る ④海を利用する の4つの視点で取り組んでいます。低学年は生活科、中・高学年は総合的な学習の時間で行います。また、高学年は「里海科」という教科を特例で文部科学省の認可を受けて取り組んでいます。

I. 海洋教育について

A 海に親しむ

- ・海を体験しよう
- ・漁師の仕事を体験しよう
- ・海に関わる仕事を見学しよう
- ・海に関わる活動を体験しよう

B 海を知る

- ・海の魚について調べよう
- ・海の植物について調べよう
- ・海の生き物の誕生を調べよう
- ・海の生き物の関連について調べよう
- ・海を通した文化交流の歴史を調べよう
- ・海流や潮の満ち干、海底の地形について調べよう

C 海を守る

- ・日本の水産業と海洋環境について調べよう
- ・地球温暖化と海の変化について調べよう
- ・海の環境の変化と生き物の暮らしについて調べよう
- ・人々の暮らしと海洋に及ぼす影響について調べよう

D 海を利用する

- ・日本の水産業について調べよう
- ・日本の海運について調べよう
- ・世界の海運について調べよう
- ・世界の結びつきと海運の働きについて調べよう
- ・日本の海洋でのエネルギー開発について調べよう

今年度の海洋教育の研究主題

海に親しみ「ふるさと」にほこりと愛着を持つ児童の育成 ～自ら進んで、考えや思いを表現・発信することができる児童～

昨年度3月の児童アンケートの結果から、考えをまとめたり伝えたりすることについての力を伸ばす必要があることが見えてきました。そこで、今年度は、体験したり見学したりしたことを整理し、教え合ったり思いを伝え合ったりすることで、進んで学ぶ力をつけることを目指し、研究主題を設定しました。

自ら進んで、考えや思いを表現・発信することを目指して取り組んだ、1学期に行った海洋教育について、ご紹介します。

I年生 生活科：海辺の砂遊び

五色ヶ浜へ行って砂遊びをしてきました。手と足を使って砂の感触を楽しみました。砂浜に落ちている漂流物や海藻を使って砂山に飾りつけをして、工夫しながら遊んでいました。グラウンドの砂よりも、海の砂の感触が柔らかくしっとりして気持ちがよいと比較して振り返っていました。夏の砂浜遊びを満喫しました。



2年生 生活科：九十九湾には、どんな生き物がいるのか？

のと海洋ふれあいセンター付近の海で、磯観察をしました。能登里海教育研究所と、のと海洋ふれあいセンターの先生方に協力していただき、実際に生き物を捕まえて観察しました。ハゼ・エビ・カニ・ヤドカリ・貝・海藻の仲間の名前を教わったり、アメフラシの卵を見せてもらったりしました。磯観察をしたあとは、どんな生き物がいたのか、メモをして整理しました。



3・4年生 総合：小木の海を知ろう

越坂の海岸清掃を行いました。海岸清掃を行った範囲は狭かったのですが、7kgもの海洋ごみがありました。中には、外国から流れついたものもありました。活動後は、気付いたことやこれから深めたいことをまとめました。今後は、海洋ごみがどのように流れ着くのか調べます。また、川と海のつながりについても学習します。



5年生 里海科：海藻の成長条件を調べよう

理科の「植物の発芽と成長」の学習を生かし、海藻を使って成長の様子を調べました。海藻も陸の植物と同じ条件で成長するのかという課題のもと、実験をしました。アナオサという海藻は、児童が予想した通り、日光を当てたものと肥料（海洋深層水）をあたえたものが大きく成長したことを確認しました。



6年生 里海科：陸の植物と海藻を比べよう

理科でジャガイモの葉でんぶんができる学習したことを生かして、海藻でもでんぶんができるかを調べました。スジアオノリの海藻は、日光に当たることでヨウ素液が青紫色に変化しました。実験から分かったことを書きまとめ、日光に当たるとでんぶんをつくる海藻と、日光に当たってもでんぶんを作らない海藻があることを結論づけることができました。



児童が、「表現したい！発信したい！」という思いをもてるよう、児童の「やってみたい」を尊重しながら、様々なことにチャレンジできる海洋教育をすすめています。また、様々な視点から学べるよう、地域にある学習素材を生かした海洋教育を行っていきます。